

## 平成30年度 第3回東海村高齢者福祉計画推進委員会議事録

日 時：平成31年1月28日（月）18：30～20：00

場 所：なごみ東海村総合支援センター2F 多目的室

出席者：（委員）薄井委員長，藤澤副委員，土屋委員，松本委員，並木委員，上条委員，妹尾委員，齋藤委員，宮部委員，三田委員，藤田委員，小野寺委員，深谷委員，鹿志村委員，綿引委員

（事務局）高齢福祉課 清水課長

（介護保険室）：三浦補佐，鈴木係長

（高齢支援）：坂本主任看護師，大杉

（地域包括）：藤田補佐，石橋係長，三瓶係長，鶴田係長

福祉総務課：渡辺係長

健康増進課：千葉補佐

欠席者：（委員） 船橋委員，朝岡委員

配付資料：（事前配付）

- ・グループ別名簿

（当日配付）

- ・「終末期の介護に関する講演会」開催案内
- ・「すこやかウォーキングの実施について」
- ・「とうかい健康 Point 事業」資料
- ・「ピンチはチャンスたのしく生きるヒント」
- ・テーマに関する資料
- ・ワークシート
- ・ワークシート（まとめ用）

### 1 開会 事務局：三浦

開会に先立ちまして，本日机に置かせていただいた資料ですが，「とうかい健康 Point 事業等のチラシ」，「終末期の介護に関する講演会」のご案内です。不足はございませんでしょうか。前回の委員会の議事録についきましては先日郵送しておりますが，一部修正がありましたので，本日再度配付させていただきました。

本日は，お忙しい中，ご参集いただきまして，誠にありがとうございます。定刻となりましたので，ただ今から，平成30年度第3回東海村高齢者福祉計画推進委員会を開催いたします。本日朝岡委員が欠席となっておりますが，委員の過半数の出席がございますので，委員会は成立いたします。また，ご報告となりますが，JA常陸デイサービスセンターふれあいセンター長の船橋委員が退職されることに伴い，委員を退任されることになりました。本委員会の委員委嘱に関しましては，船橋委員の後任の方と今後ご相談する予定ですので，お知らせさせていただきます。

それでは，お手元にあります資料の次第に沿って進行させていただきます。はじめに，高齢福祉課長の清水からご挨拶申し上げます。

## 2 高齢福祉課長挨拶 清水課長

本日はお忙しい中、そしてお寒い中、お集まりいただきましてありがとうございます。年が明けて1月末となってしまいましたが、本年もよろしく願いいたします。先週から県内にインフルエンザの警報が出ておりますが、どうぞ、気を付けていただきたいと思います。

さて、平成30年12月末の東海村の高齢化率は24.5%、介護認定者数1357人、認定率は14.2%です。県全体の高齢化率は28.9%ですので、県全体よりは低くなっておりますが、高齢化率は毎月少しずつ上がってきております。こうした中、健康寿命の延伸を図る目的で介護予防事業を重点事業の1つとして行っているところでございます。

現在、事業につきましては佳境に入っているところでございますが、年々福祉の課題は多種多様・複雑化しております。本日はグループワークということで、日頃から感じている課題としてテーマを2つ挙げております。委員の皆様のご意見を参考にしてより良い事業の推進を図りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 3 委員長挨拶 薄井委員長

みなさんこんばんは。今清水課長からもお話がありましたが、本当にインフルエンザが流行っておりますので、皆様健康にはくれぐれもご留意いただきたいと思います。

今回の委員会ですが、グループワークということでいつもと変わった内容になっております。この後事務局から細かい話があると思いますが、グループに行政の方がいる中で、行政にどのようなことを取り組んでもらいたいかという視点で話し合うということです。直接行政の方の前で言えるというのはユニークなやり方だと思います。

通常の委員会では決まった委員が発言されることが多いですが、今回は小さいグループの中ですので、忌憚のない意見をいただいて、高齢者福祉計画に帰するものにするということで普段の委員会以上に知恵を絞っていただければと思います。本日はよろしくお願いいたします。

## 4 議題 議事進行：薄井委員長

### (1) 7期計画推進に向けたグループワーク

委員長) 最初に事務局からテーマや進め方についての説明をお願いします。

〔説明概要〕事務局：大杉

- ・テーマに関する資料を使い説明。テーマは2つとし、A・Bグループがテーマ1。C・Dがテーマ2とする。
- ・テーマ1：「いつまでも健康に～健康寿命を延伸するためには～？健康寿命を延伸し、高齢者自身や住民にボランティア、NPOなどで活躍していただくためには、どのようにすればよいか？」
- ・テーマ2：「介護予防教室等、地域、関係機関で開催する教室や事業、講演会などの参加者はどのようにしたら増やすことができるか？」
- ・各グループのリーダーは事前に村から依頼済み。(Aグループ薄井委員長、Bグループ藤沢副委員長、Cグループ土屋委員、Dグループ鹿志村委員)グループ内で発表担当、記録担当を決めてもらう。
- ・ワークシートを配布してあるので、最初に5分程度テーマについて個人で考えてもら

い、その後グループ内で意見を出し合う。(ここまでで40分)。その後、各グループ5分程度で発表する。

- ・テーマについて検討する際には、①自分たちにはどのようなことができるか。②行政にはどのようなことを取り組んでもらいたいのか。の2つの視点で実施する。

委員長) それでは、グループに分かれて話し合いに入ってください。

～各グループで話し合い～

事務局) 時間となりましたので、話し合いを終了してください。

委員長) それでは、Aグループから発表をお願いします。

[Aグループ] テーマ1について

●視点①に関して

- ・自分自身がまず心も身体も健康でなくてはならない。
- ・村内の専門職に私たちがインプットしたものをアウトプットしてもらわなくてはならない。

●視点②に関して

- ・交通手段の課題があるので、バスの無償提供してもらったり、デマンドタクシーをボランティア活動には無償化してはどうか。
- ・若い世代、子供世代にボランティアの意識を植え付け、自然とボランティア活動ができるようにするためには教育が大切。また、子供たちがボランティア活動をやりだすと親もつながっていき、ボランティア活動に興味をもってくれるのではないかな。
- ・ボランティアに興味をもってもらうために、とうかいまつりなどの村のイベントでボランティア団体のPRをしてはどうか。まつりの際に、大勢の前でボランティアの表彰をするのも良い。表彰対象としては、長年活動を継続している人だけでなく、若い世代で新しく始めた人も表彰するのが良いのではないかな。
- ・ボランティアの世代格差を埋め、悩みの共有するために、ボランティアサミットをやってはどうか。各ボランティアの横のつながりができて情報共有できるのではないかな。

[Bグループ] テーマ1について

●視点①に関して

- ・ポイント制に自治会として挑戦してみてもどうか。
- ・高齢者クラブや趣味のサークルなどの加入を促進する。
- ・社会とのつながりが認知症予防やアンチエイジングになる事を自覚し、相互に誘い合う。
- ・ときめくことを忘れず、社会とのつながりを持つ。

●視点②に関して

- ・ポイント事業に取り組んでいる人と、そうでない人の罹患率の違いをデータとして示してほしい。
- ・様々な計画や事業を誰にでもわかりやすいネーミングでお願いしたい。例えばレスパイト事業など。
- ・グループを立ち上げる時の支援だけでなく、その後のフォローを継続してほしい。
- ・外出させる仕組みづくりに取り組んでほしい。南台集会所にはパンポンコートがあり、

自然に地域の人が集まってくるような活動をしている。

- 事業をやると、行政は公正・平等を掲げて実施すると思うが、モデル事業を作って徹底してやって、他に波及させる方法をとらないと進まない。

#### 〔Cグループ〕 テーマ2について

##### ●視点①に関して

- 自治会の加入者を集めること。なかなか若い人が集まらないので、このままだと自治会が無くなってしまふ危険性がある。若い人の加入を促進するためには加入することのメリットや楽しみがないといけないのではないか。
- イベントなどの集客を高めるためには、今の関心に即したタイムリーな内容で行うことが効果的ではないか。地区社協，ボランティア，サークル活動をしている人などに声をかけることで横のつながりを活用した集客ができるのではないか。
- 地区単位での催し物を複数回開催することで、もっと参加しやすい環境が作れるのではないか。
- 横のつながりを大切にすることで、地域で知り合った人に声をかけ、ターゲットを絞りこむことも大切なのではないか。
- PRしたい事項を一覧にする。例えば、村と社協でそれぞれ教室を実施している場合に、それぞれでチラシを配布するのではなく、村全体で一覧にすることで一緒に案内でき、PRしやすくなるのでは。
- 関心のある人が関心の少ない人をどうやってまきこむのかが重要。

##### ●視点②に関して

- 広報とうかひの影響は大きい。若い世代にはSNS等での発信も大切。
- イベント等は開催時期をよく検討することが大切。秋～冬や年度末にやっても集客率は上がらない。年度初めや夏場に企画した方が集客できるだろう。
- 子供会等への働きかけも大切。ある地区では隣の地区も一緒に参加できるようにして行事等を開催している。このような柔軟な活動を広げていければよい。

#### 〔Dグループ〕 テーマ2について

##### ●視点①に関して

- 集客を高め、事業を周知するためには、広報等で配布するだけでなく、地域のコミュニケーションを深めることが重要。行政からの情報をサロン，高齢者クラブ等で直接顔を合わせて伝えたり，デイサービス等で自宅へ行ったときに家族に直接お知らせすることもできる。
- 介護事業所へポスター掲示を行うことで面会者に対して周知できる。
- 魅力ある講演会づくりへの協力という面では，病院の専門職の協力もできるのではないかと考えている。
- 住民主体の介護予防を広げていってほしい。小規模な活動は，やる場所の確保が難しいこともあるが，住民主体で居場所を作ってもらえると助かる。

##### ●視点②に関して

- 様々な団体のリーダーとなる人に，行政から積極的に声掛けをしてほしい。リーダーが地域の人とコミュニケーションをとって情報をつないでいけるように。
- 交通手段がないとか，開催場所が遠いという話もあるので，参加者を集めるのではなく，

こちらから出向く形での開催が良い。

- (教室や行事等への参加者を増やすためには) 民生委員などから地域の方への参加を促すと効果的なのではないか。
- コミセンなどへ行く際に、社協バスやデイサービスの車(送迎の時間以外は空いているので)を活用できれば良いのではないか。
- (教室や行事の案内は) 広報とうかいに記事の一つとして掲載するよりは、一枚別のチラシにした方が目に付くのではないか。
- 若い世代に対しどう周知していくかが課題。若い世代にはSNSなどの媒体を使うのもひとつだし、小・中学校で講演会等を行うことで親世代にも働きかけることができるのではないか。

委員長) その他何かございませんか。

委員長) 皆様お疲れさまでした。意見はいっぱい出たと思うのですが、そのプレゼンが難しいですね。様々な意見を箇条書きのように報告する形になってしまおうと思いますが、その中でこの意見とこの意見がつながっているということもあるので、難しいと思います。発表の方もとても大変だったと思います。

ここで、私から一言総括をさせていただきます。

- Aグループ: キーワードとして、「まずは自分が健康に」ということが出ましたが、とても良い話だと思えました。また、「子ども」という視点ですが、子どもの野球・サッカーとなると、親はとても早起きして手伝いますし、エネルギーを使います。だから、子どものボランティアサミットを開催すれば、親も巻き込めるのではないかと、ということです。行政は住民活動に対し、補助金等の予算措置はしてくれるが、この項目では使用してはいけないなど細かい制約があるので大変。という意見も出ていました。
- Bグループ: 「ポイント制」や「ときめくこと」といったキーワードがでましたね。疾患・罹患率を調べましょうというやり方もロジカルな人にはインパクトがあると思いますが、それで結果が出ないとリスクがあると思います。また、専門用語を使わないというのも良いお話だと思います。今ACP(アドバンス・ケア・プランニング)言葉がありますが、意味がわかりませんよね。人生の終末期における医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと話し合う取り組みのことなのですが、これを「人生会議」と言うことにしたそうです。このような換えも大事だと思います。「難しい言葉を使わない。」行政もそうですが自分もこれを肝に銘じようと思えました。
- Cグループ: 自治会の入会者を増やすためにはインセンティブがあればという話がでましたね。これは私個人も実感しているところです。自治会の活用というのは、今ある既存のものの活用という視点でも、良いことだと思います。SNSの活用ということも若い人には良いと思います。東海病院のHPも変更したらアクセスが増えましたし、若い人向けにはそういう工夫も必要だと思います。高齢者のボランティア団体の方はこのような工夫が苦手かもしれませんので、そういった点でのアドバイスが村に求められているのかもしれない。
- Dグループ: 地域とのコミュニケーション(フェイス to フェイス)とSNS両方を棲み分けて活用していく。というのは良かったと思います。また、行政に取

り組んでもらう視点として、組織のリーダーとの連携や「来てください」ではなく、「こちらから出向いていくと」という話が出ましたが、それらも、もっともだと思いました。

足の確保の話でも、社協のバスや施設のデイサービスの送迎車の空きの時間の活用という具体的な案が出ているところが良いと思いました。

- これが全て今後の高齢者福祉行政に反映されるかという点、それは難しいと思いますが、意見を出してその中で捨っていくということだと思えます。

委員長)では、ここで事務局に進行を戻します。

### (3) その他

#### ①「終末期の介護に関する講演会」について

事務局) 皆様お疲れ様です。2月16日(土)介護に関する講演会を開催します。講師の先生は、せせらぎ在宅クリニックの清水亨先生です。一人一人にあった訪問医療についての尊厳を大切にされた看取りケアを行っていらっしゃるようで、ご自分の経験を踏まえたお話を聞けると思えますので、ご都合のよろしい方はご参加をお願いします。

#### ②「すこやかウォーキング」について

事務局) 2月からポイント事業の応募が始まります。平成27年度からポイント事業は実施していますが、今年は100ポイントたまると地域商品券を贈呈することとしており、健康増進課だけでなく、高齢福祉課の介護予防事業や体育館のスポーツ事業なども対象になっています。若い方が行政でおこなう事業に参加することは難しいということで、自分の生活の中でできるチャレンジメニューも実施しています。ぜひ応募をお願いします。

また、白方「桜薫る田園コース」のウォーキングについての案内です。3月に本年度最後として白方コースを実施します。お時間のある方はぜひご参加ください。よろしくお願いします。

#### ③「ピンチはチャンスたのしく生きるヒント」講演会について

事務局) 秘書広聴課主催の講演会で、林家まる子さんをお招きした講演会です。2月20日(水)お時間があれば、ご参加ください。

#### ④今後の予定について

事務局) 次回の委員会ですが、今年度最後として、3月に予定しています。事前に事務局で本年度の実績見込み及び評価コメントを実施し、その後委員による評価コメントを提出いただき、3月の委員会を開催したいと思います。よろしくお願いします。議事は以上です。

本日は短い時間でのグループワークでしたが、顔の見える関係ということで今回実施し、来年度も機会があればまた実施したいと思いますのでよろしくお願いします。本日はどうもありがとうございました。

## 5 閉会